

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第44回 全国中学校バスケットボール大会	期間 2014年8月22日(金)～8月25日(月)
開催地 香川県	会場 高松市総合体育館など
参加者 大川 潤	所属地区名 札幌
講師 玉木 彰治 氏	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など なし	
実技研修、座学研修等の記録 【審判の目線から見たコーチ論】 1. バスケットボール競技規則をどう読むか コーチも審判も同じであり、行間を指導・判定できることが良いプレイヤーを育てる。 2. 判定について ■パーソナルファール ①シリンダー…触れあいの責任の所在 ②影響…S(スピード)、R(リズム)、B(バランス)が崩れる。 ③有利、不利 ④判定基準…一貫性→プレイが育つ→判定が成熟する→判定力 3. 良い審判になるために (良い指導者になるために) ①審判や指導者の価値は、今のチームや最後に吹いた笛であることを認識すること。 ②過去にしがみつかず、更なる進歩を続けること。 ③自分に正直に自己評価すること。 4. 中学所属審判員の現状と課題 中学校のゲームはほとんどが中学教諭が審判を務め、教諭としてのモチベーションで試合を担当する。多くのプレイヤーは素直で判定に対して不服を述べることはほとんどない。そのため、審判員の「1つの判定」に対して非常に意識が薄く、無頓着である。 【具体的な問題点】 ①オフェンスが使う悪い手に関しては非常に意識が薄い。 ②ブロックショットに対する見極め。(ナイスブロックをファールにしてしまう) ③トラベリングの正確な見極め。(形で判定している)	
実践実技1	
2014年8月23日 (土)	対戦カード 女子予選リーグ 桜(秋田) 34vs35 丸亀西(香川)
副審 大川 潤	相手審判 杉浦 元一 氏(A級 東京)
ゲーム前のカンファレンス内容 ①アウトサイド中心のチームなので、リードの見方の工夫。コーナーからの3Pをチームとして狙っているので、リードがあまり右に行きすぎない。 ②3番エリアの引き継ぎについて ③フィジカルの強いセンターに対しての守り方と飛び込みリバウンドについて ③地元チームなので、雰囲気にもまれないように	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:石川 淳也 氏(A級 大阪) ①ファールについて、笛を入れるのが早いので、もう少し影響を見てから笛を入れること ②バイオレーションについては、見極めをしっかり行う。トラベリングをコールしたときにボールが離れている状況が何度があった。 ③4Qの大事な時間帯でよく決断して笛を入れていた。	

## ゲーム感想

2回目の全中であり、精神的には問題なく試合に臨むことができました。事前に両チームの試合を一緒に吹く杉浦氏と見ることでプレゲームカンファレンスをより入念に行うことができました。

女子のゲームは、男子に比べてスピード感はないが、細かい動きが必要とされるので、最終局面のスペースを意識してペネトレートできた場面が多かった。しかし、ファールに関しては、触れ合いの事実があっただけで、笛を入れているケースがあったので、影響までしっかり見極めて判定していきたい。そのためには、その先のプレーを予測できる位置にこだわりをもちたい。

## まとめ

自分自身の課題である「細かい動き」については、主任からも評価していただき、自信になった。日ごろ北海道の方々から指導していただいていることを継続することが大切だということを再認識した。

今回も昨年に引き続き、2日目の割り当てがなかった。2日目の試合には、日本公認で4名の割り当てがあった。その4名の中に自分の割り当てがない現状を考えると、まだまだ力不足であると感じた。「4名しか割り当てがない」と感じるか、「4名も割り当てがある」と感じるかで今後のモチベーションが変わるので、2日目に日本公認の割り当てがある以上、来年度の向けて、また研鑽を積んでいきたいと思う。地元で評価されることも大切だが、全国でどのように評価されるのかも、大切なことである。

試合後のミーティングの中でよく出ていた言葉は、「ゲームコントロール」であった。玉木氏の事前の講義の中で、「選手の力量は、審判の力量に落ち着く」とあったが、ゲームコントロールもその一つだと感じた。

全国大会だから特別な動きができるわけではなく、日ごろの活動がすべてあるので、今後も良い習慣を身に付けていきたい。最後に、このような機会を与えていただいた道協会森野理事長様をはじめ、審判委員長の北本委員長様のご配慮に厚く感謝いたします。ありがとうございました。